

総合資源エネルギー調査会基本政策分科会への意見提出

令和6年7月23日

寺澤達也

本日開催の基本政策分科会に残念ながら出席できないため、書面で意見を提出させていただきます。

1. ガス火力の意義と LNG 安定調達の重要性

再エネの導入拡大に伴う出力変動に対応しながら電力システムの安定を図る上では dispatchable な電源としてガス火力の意義は高まっています。また AI の拡大などによる電力需要の増大に対してタイムリーにかつ十分な規模で供給力を確実に確保する意味でもガス火力を増強する必要性は高まっています。

こうした観点から LNG の安定調達は極めて重要ですが、最近のエネルギー危機の際における LNG 市場の逼迫を踏まえると、将来の様々な不確実性に備えた調達を図ることに加え、そのうちの一定量を長期契約で確保することがセキュリティの観点から肝要となります。新たな長期契約は欧米勢や中国勢が獲得し、日本勢がなかなか取れていない現状を踏まえると、将来の不透明性をできるだけ軽減した上で、政策対応を通じたリスク軽減策の検討を含め、官民一体となった取組が必須だと考えます。

2. 石炭火力の役割

増大する電力需要に対して十分な電力供給を確保して行く上では既存の石炭火力にも大切な役割があります。再エネの出力変動に対応するためにも、dispatchable な石炭火力にはガス火力に準じた役割があります。

エネルギーコストを抑制するためには、特に新しい高効率の石炭火力を活用することが有効な方策となります。不測のリスクに備えて電力の供給力を確保しておく上では、石炭火力設備をキープしておくことの意味もあります。この際、LNG については在庫日数が限られている弱点があることも十分勘案する必要があります。

他方、脱炭素化の要請もあります。このためには、石炭火力の kW は維持しつつ、kWh をできるだけ抑制していく運用も必要になるかと思います。老朽化した効率の悪い石炭火力の休止を計画的に進めて行くことも必要でしょうし、新しい高効率の石炭火力についてはアンモニア混焼などを通じてできるだけ CO₂ の排出を抑えていくことも必要でしょう。

このように石炭火力の廃止を徒に拙速に進めるのではなく、電力需給の安定、リスクへの備え、コスト最小化といった複眼的な視点から取り組んでいくこと

が肝要だと思います。

3. 脱化石燃料のプロセスの中での需給安定の重要性

石油や石炭について長期的には脱化石燃料の流れがあることは明白です。しかしながら、需要の減少を上回る速度で供給力を削減した場合、需給逼迫を惹起しかねない点には十二分に留意が必要だと考えます。こうした事態を避けるためには、石油や石炭について需要の減少速度を見据えた秩序だった供給力縮減のペースが肝要であり、必要な投資や調達努力を怠ってはいけないと思います。

最近ジェット燃料の不足の問題が注目を浴びています。ロジスティクス面での課題も多々ありますが、ガソリン需要の減少に対応して精製能力の削減を進めてきたことも背景にあることは否めません。この点では、国内問題のみならず、国際石油市場での原油全体の需給だけでなく、二次設備も含めた精製能力と製品別需要の動向を踏まえ、ジェット燃料、軽油、灯油など燃料種別の需給バランスをも今後十分に考えて行く必要があると思います。このためには、精製能力の在り方、製品備蓄の必要性を含め、最適な対応策を多面的に検討する必要があることを痛感しています。

(以上)